



みずみどり

2020年 12月1日 第141号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.cocacn.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

赤塚トンボ池の渋柿

草や木の実と野鳥



トンボ池に柿が実っています。通りかがりの人に「この柿は食べられますか」と聞かれることがあります。残念ながら渋柿。渋い柿も実が崩れるほどやわらかくなると渋がぬけてとても甘くておいしい。カラスやヒヨドリは甘くなるのを待っているのでしょうか。

あちこちにあるアオキやナンテンなどの赤い実や、トンボ池にあるヤブランの青い実は、春までの間の鳥たちの食料。おいしいものから食べられていきます。植物は果実を野鳥などに食べてもらって糞と一緒に種を運んでもらいます。植物の子孫を残す戦略の一つですね。

新井さんからの新情報—エコポリスセンターの浮間公園観察会で、タヌキのため糞が見つり、その内容物に未消化のギンナンがありました。タヌキはギンナンの臭い果肉を食べるのだそうです。

おもしろい種いろいろ一子孫を残す植物の戦略



風に乗って飛ぶ種



アオギリの種はおもしろい。左は枝にぶら下がったさや。種のくっついたさやが風に乗って飛んでいきます(中)。アオギリは赤塚8丁目の森(ため池の向かい)の下にあります。右は、パッタ広場のガガイモ、さやが割れて種が綿毛と一緒にふわふわと飛んでいきます。種は5mm以上あり、綿毛(種髪という)は長くてふわふわしています。



動物や人にくっついて運ばれるくっつき虫

アメリカセンダングサの種(左)にはトゲがあり、パッタ広場のチカラシバの種もトゲが服などに刺さって運ばれます。粘着テープのような種や、べたべたしてくっつく種など、種をどのように散布するか植物も考えていて面白いです。

生き物達のビオトープ(2)

赤塚トンボ池に生き物はいるの？

赤塚トンボ池はフェンスがあって中に入れないので、何がいるのかよくわかりませんね。池の中は泥深く普通の長靴では潜ってしまうので、私たちも池の外側から観察します。

ヒキガエルがきて、オタマジャクシがかえった頃は、わざわざ見に来る人も少なくありません。3月になるとヒキガエルが池の中でバシャバシャと音をたてて蛙合戦(婚活)を繰り広げているのを見るとびっくりします。蛙は産卵すると山に戻っていなくなり、やがて卵がオタマジャクシ

になる頃カルガモがいます（あるいはオタマジャクシになる前に卵を見つけてしまうこともある）。カルガモはお目当てのオタマジャクシを食べ尽くしてしまうといなくなります。

カルガモもいなくなると、池は静まりかえって何かがいるように見えません。観察や草刈などの作業をしていると、「何かいるんですか」とよく聞かれます。私は「見えないけど、何かいるんですよ」と答えます。

夏には水面をアメンボが泳いでいます。池のなかにはザリガニ、スジエビがいます。うれしくないけどフェンスを乗り越えてザリガニ捕りに来る親子もいます（立ち入り禁止です）。

スズメバチも来ます（巣はないと思う）。池の奥の茂みから、アオダイショウや小さなヘビのヒバカリが出てきたりします。ヒバカリはオタマジャクシが好物らしく、すーっと泳いでいます。ここにヘビがいるということは、オタマジャクシだけでなくエサになる生き物・・・カナヘビやトカゲやカエルなど・・・がいる自然の場所だということです。カナヘビやトカゲは体温をあげるためにひなたぼっこをするので、外から石の上や葉っぱの上にいるのをよく見られます。寒くなるとヘビ、カナヘビ、トカゲ、カエル達は落葉の下などで冬眠します。

トンボ池なのでトンボは来ています。シオカラトンボ、オオシオカラトンボはよく見られます。（オオ）シオカラトンボは6月頃から来ます。オスは池のそば（自分のなわばり）をウロウロして、他のオスが来ると追っ払ったり、追い出されたり。メスが来て連結して交尾、産卵するのをフェンスの外から何度かみました。メスはお尻をチョンチョンと水につけるようにして卵を落としていきます。ヤブヤンマも来て産卵しました。が、今年はノシメトンボもリスアカネも見なかったし、アキアカネは2回しか出会えませんでした。夏に雨が多かったこともあります。トンボが減ったように思います。バッタ広場にくるトンボも少ないように思いました。

瀬田さんによると、トンボが減った原因はこうです。トンボは学校のプールに産卵し、プールが始まる前に「ヤゴ救出作戦」で救出したヤゴを子ども達が飼育する取組みがなされていましたが、コロナでプールが中止になりプールの水は抜いたまま。その影響でトンボが減ったのだと。本当はどうなのでしょう。

茶色のスズメバチのような虫が頻りに訪れ、シオカラトンボが産卵するように盛んに水面をチョンチョンしています。つかまえて調べればいいのですが、池に落ちたら格好が悪いので遠くから見るだけ。虫の正体はわかりませんが、ハナアブが産卵しているのかもしれない。

以前奥の藪の小枝にザリガニが刺さっていたことがありました。モズは捕まえたエサをすぐに食べずに小枝などに突き刺しておく習性があります。刺さったザリガニを見たときモズがここに来るとは思わなかった。写真を撮っておけばよかった。今年11月半ば、トンボ池の浅い棚田から飛び立った薄い褐色の鳥はモズのように見えました。

浅いところで、野鳥が水浴びをしていることもあります。近付くとぱっと逃げてしまいます。夜は私たちが知らないだけで、別の生き物たちが来ているでしょうね。

トンボ池には、見えないけど生き物達がすんでいます。池にたまった落葉や枯れ草はヘドロになるので、冬には池底を干してヘドロを掻き取り、周囲の枯れ草なども程々に刈ります。でも生き物たちのために、落葉も枯れ草も少し残しておきたい。だからよろしくおねがいします。

「ミツバチを飼って分かったこと、 感じたこと」 (その1)

新井康之

板橋区内で養蜂を行っているグループ「ぶんぶんいたバチ」で代表しています。このたび、坂本さんからミツバチについての記事執筆を依頼されました。7年間続けている養蜂作業で感じたこと、気づいたことを書かせてもらえればとお受けしました。

本題に入る前に、養蜂のこと、「ぶんぶんいたバチ」、城北中央公園との関わりについて紹介させていただきます。

1. 「ぶんぶんいたバチ」Q&A

自分でミツバチを飼って集めた蜂蜜を味わってみたいと思ったことはありませんか。そのような夢をグループで実現させたのが「ぶんぶんいたバチ」です。養蜂について皆さんにお話しするといろいろな質問を受けます。まず、都市養蜂の疑問についてお答えしましょう。

Q1: 「蜂蜜はどれくらい採れますか？」

1群あたり最大で年間20kgほどです。初夏の花からの集めた蜂蜜を7月に、夏の花から集めた蜂蜜を10月に採っています。蜂蜜は巣枠面に並んだ六角柱（巣房といいます）に貯められ、蜂たちが水分を飛ばして濃縮、保管用に蓋をします。私たちはその蓋を削って採蜜しているので、糖度が高く濃厚なのが特徴です。

養蜂業者は花を求めて全国を移動し、花の近くで効率よく蜂蜜を集めます。そして花の種類別に採蜜をしていきます。1群あたりの採蜜量は年間80kgほどといわれていますので、私たちは素人レベルです。

Q2: 「どのような種類のミツバチを何群飼っていますか？」

養蜂に使われるミツバチには日本在来のニホンミツバチと養蜂用に海外で長く飼育されているセイヨウミツバチの2種類があります。「ぶんぶんいたバチ」では養蜂技術が確立され、蜂蜜収穫量の多いセイヨウミツバチを飼育しています。令和2年11月現在2群飼っています。今年3



月に1群購入して、5月に巣分かれさせて2群にしました。

Q3:「ミツバチが蜜を集めに行く範囲はどれくらいですか？」

巣箱から5kmほど先まで飛ぶようですが、効率よく花蜜を集められるのは2km程度の範囲といわれています。「ぶんぶんいたバチ」の巣箱の北西～南西方向1kmの扇形には都立城北中央公園が広がっています。ここが主な採蜜地と考えています。



Q4:「ミツバチに刺されますか」

はい。わりと頻繁に刺されます。

ミツバチの活動時期には週に一回巣箱内部を点検します（内検作業）。この作業中や作業後に刺されます。ミツバチにとって内検は巣を襲われることに等しいのです。もしこれがスズメバチの巣だったら大変なことになりますね。したがって内検作業はミツバチたちに気付かれないようにゆっくり静かに行うのが鉄則です。

点検中、異常に気付いたハチは羽ばたいて攻撃フェロモンを拡散させて仲間に危険を知らせます。よく巣箱に煙をかけているのを見かけるとは思います。私はフェロモンを攪乱する手段と考えています（諸説あります）。

攻撃フェロモンが行き渡り、群の多くが騒ぎ出したら危険な状況です。フェロモンは甘い香りがするといわれています。巣枠を持った手に止まり毒針を刺してきます。皮手袋をして作業をしますが、毒針を通してしまいますので、深く刺されることは防いでもやはり刺されます。一度騒ぎ出さずと煙をかけても効果がありません。一旦内検作業は中止します。

作業後も要注意です。5mほどは追ってくるハチもいます。ミツバチは黒い物を敵とみなし刺してきます。防具をとり髪の毛が見えていると潜り込まれて頭を刺されることがあります。

刺されたところは数日間腫れますが、程度は個人差があります。何回か刺されるうちにアナフィラキシー症状が出る人もいます。私もその一人。ひどく刺された時に呼吸が苦しくなりと全身に発疹が出ました。今年はメンバーの配慮で直接の作業から外していただき、刺されずに済みました。ハチが暴れだしたらミツバチの扱いが雑だと思う謙虚な姿勢が大切です。

Q5:「住宅地でもミツバチは飼えますか？」

巣箱を置ける広い庭があれば飼えると思います。熊谷養蜂のカatalogを見るとミツバチ一群を飼うためのキット（ミツバチも含む）を10万円ほどで販売しています。ただ経験から言えば指導を受けずに養蜂を始めるのは難しいです。セイヨウミツバチ飼育を主体にした良い解説書も発売されましたが、内検作業を手早く済ませるために（ミツバチにストレスを与えない）ミツバチの様子を見るポイントを身に付ける必要があります。養蜂グループに参加するなどして実務を身に付けてから、個人的に飼われることを薦めます。

Q6:「蜂蜜は販売していますか？」

「ぶんぶんいたバチ」では食品販売の知識（主に安全性に関して）がないので、一般への販売は行っていません。活動資金を寄付で集めているので、寄付金の返礼品として蜂蜜をお渡ししています。（次号につづく）

バッタ広場のたんけん（10月21日）

高島第五小学校 3年生2学級45人の環境学習

SOE主催の環境学習がありました。いたばし水と緑の会から山田、瀬田、坂本がサポートしました。授業の2日前、下見したときは肌寒く、ゴミグモとカマキリがいたくらいでしたが、当日は快晴で暖かくなってくると虫たちも出てきました。大分県出身の担任の先生がお話しの中で「大分では、こんなに生き物がいっぱいいるところはない」と驚かれた程。

生徒45人と付き添いの大人が狭いバッタ広場に入るのはまずい（自然も壊れる!）。そこで10分ずつ交代でバッタ広場に入って観察。その間他のグループは外から観察したり、広場の前のチカラシバの草むらを観察したり（ここにはバッタなどがいっぱいいる）、モグラ塚をみたり・・・最初は草むらを嫌がっておっかなびっくりの子どもや虫が得意でない子どもも、ちゃんと付き合っ観察しました。洋服にはくっつき虫（種）がいっぱい。

子ども達に、「城址に来たことがある？」と聞いたらほとんどの子どもが手を上げ、さらに「バッタ広場で虫取りしたことがある？」と聞いたら、1/3位の子どもが手を上げました。バッタ広場に来て遊んでいく子ども達が多いことがわかりました。結構知られていました。

後でいただいた報告には、カナヘビ、カマキリ、クビキリギリスなどや野草の写真もあり、たくさんの生き物に出会えたことがわかります。感想には「虫も頑張っ生活している」とか、「自然を守らなければいけない」など殊勝なことも書かれてい



ました。

子どもの達がバッタ広場の自然を大切に思ってくれるといいなあと思いました。

久しぶりに見たアオオサムシ

城址に登る道でアオオサムシの死骸がありました。

アオオサムシは森の中で落葉の下の虫などを食べる大きさ3cmくらい、緑色の金属光沢のきれいな虫です（漫画家手塚治虫の名前は、オサムシからきているそうです）。アオオサムシは羽があっても飛べません。生息地（自然）の面積が小さくなり、細切れになると生きていくのがむずかしい生き物です。



20年程前の調査では城址の斜面林・湧水水路・竹林にアオオサムシがいっぱいいました。

2010年ごろまでバッタ広場でアオオサムシをよく見かけました。その後、斜面の道ではときどき見ましたが、バッタ広場ではほとんど見なくなりました。2017年7月に、トンボ池と池の裏の山と湧水水路でトラップ調査をして、3匹のアオオサムシを確認しました。生きていてよかった、でも少なくなったと思いました。そして、今回死骸を発見しました。最後の一匹でないといいいのですが・・・

観察記録（9月20日～11月8日）

トンボ池

ザリガニ（いるのですがトラップでうまくとれない）、アキアカネ？、産卵に来る不明昆虫（水面にちょんちょんお尻をつける？虫）、ホシホウジャク、ジョロウグモ、カメノコハムシの仲間（ニワトコの葉）

バッタ広場

ツチイナゴ、オオカマキリ、コカマキリ、ショウリョウバッタ、クビキリギリス、アオマツムシ、トノサマバッタ、ヒメクサキリ、セスジツユムシ、カネタタキ、キリギリスの仲間2
アオスジアゲハ、クロアゲハ、アカボシゴマダラ、コムスジ、ヒカゲチョウ、キアゲハ、アゲハ、キタキチョウ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、キマダラセセリ、ムラサキシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ムラサキツバメ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、
ホソハリカメムシ、カメムシの仲間、ツマグロオオヨコバイ
オオウンモンクチバ、アカマダラメイガ、コブノメイガ幼虫？、コブノメイガ成虫、シマノメイガ、クチバスズメ幼、ナカグロクチバ、マエキヒメシャク、ミノムシ、コベニスジヒメシャクの仲間、ジョロウグモ、イオウイロハシリグモ、ワキグロサツマノミダマシ、ササグモ、クサグモ、ゴミグモ、ナナホシテントウ、キイロテントウ、アキアカネ（？）、スズメバチ、ツチバチの仲間、カナヘビ、モグラ塚、



バッタ広場から飛び出したトノサマバッタ

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）または
坂本 090-4618-1295

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

12月26日（土）10:00～11:30

1月23日（土）10:00～11:30

集合場所：赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

2 赤塚城址自然観察会（第2日曜日）

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。生きものは観察したら自然に返してね。30分程度ササ刈り等もやります（カマは用意します）。

12月13日（日）10:00～11:30

1月10日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：作業をする場合は汚れてもよい服装で、あれば双眼鏡、虫眼鏡、図鑑、

3 日暮台公園と樹林地の観察

12月6日（日）10:00～11:30

2月7日（日）10:00～11:30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。定点の観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。